

## ミズキと私

### 紹介文

キムヨンジュン

私にとって大事なコミュニティーは日本に来て知り合った多くの友人達とのコミュニティーである。今僕は日本の秋田大学に留学しており半年近く勉強をしている。そして様々な人と知り合い、大勢の友人が出来た。自分は専攻が日本語であるため日本人と日本語で会話をするということはそれだけで自分に勉強になれる貴重な経験である。そして自分はコミュニティーとて大事だと思うのは会話のテーマでなく話す相手だと思う。同じテーマで話し合っても相手によって全然違う結果がでる。自分と話相手の関係や相手の態度とによってコミュニティーの完成度は大きい違いがでる。そこで自分に好感を持つ日本語ができる日本で知り合った友人達は自分にとって理想的なコミュニティーの相手になる。前期の多分コミュニケーション授業で行ったインタビューはとてもいい経験であった。お互い違う国籍を持って全然違う経験をした相手を知っていく課程も、逆にその相手に自分の考えや経験を伝えるという形式は今までなかった新鮮で面白い経験であった。

そこで私が選らんだ相手は私のチューターとしていろいろ面倒を見てもらっている丸山ミズキと云う人をインタビューしようと思う。ミズキは秋田大学国際格学部で「koreanサークル」でも活動をしている。韓国語にも興味を持っていてお互い一番出会い易い日本人である。そして今までの私の留学生活で一番大きい影響を与えている。前に書いたとおり自分は話のテーマと云うものより話し合う相手を重要だと考えてるので気軽に声を掛けられるし話もよく通じるミズキはとてもインタビューの相手として適切だと思う。日本の生活にまだ慣れてなくて大変であった頃からよく面倒をみてもらって沢山色々な事を助けてもらう内、ミズキはとても優しくて人の話もよく聞いてくれる人だと感じた。日本人を深く知っていく上、自分がインタビューの相手を困らせる質問もあるだろうがミズキならそんな事まで理解してくれると思う。なので普通留学生活でしりある周りの人達とは得られない貴重な情報も得られると思う。

**インタビューのテーマ：最近の日本の若者達に対する考え。**

**<インタビューの内容>**

私：インタビューを始めます。ミズキは最近の日本の若者達についてどう思いますか。

ミズキ：若者の何について言えば？

私：僕が考えてる日本の若者達に対する考えとミズキが考える日本の若者にたいする考えを比較するつもりなの。僕は日本はとても立派な国だと思う。国民の意識も経済力も、でも今の日本がこんなに立派な国になれたのも全部前世代の努力と犠牲の上に成り立ったもので、今の若者達はただそれに甘えていると思う。

ミズキ：なぜそう思うんですか？

私：今留学きて沢山の日本の大学生や、若者達と話し合う機会があったが日本の若者達は自分で何かを切実の求める事がないと感じた。死ぬ気で頑張らなくてもお腹を減らすことなくなんとか生きられる。あまり責任感をもっていないし自由で楽な生活を求める。そんな考え方からフリーターとか引きこもりとか、社会問題になっているし今の政治にも興味がなさそうに見える。この時代の若者達って普通そんなもんかと思うけど、特に日本は豊かすぎて、日本はそれを変えようと思わないみたい。

ミズキ：えっと、私自身もそうですけど自分のやりたいことや目標がはっきりしないまま過ごしている着がします。本当に自分がしたいことじゃなくて今の世の中、社会を考えて無難な仕事を選んで就職したいと考える人が多いような気がします。

私：僕の考えに付いてはどう思う？

ミズキ：個人の問題では在りますが確かに生活に困らない程度に稼いでいけばいいと思う人も多いとおもいます。学校教育でも昔のような厳しさは無くなって、自由な選択ができるようになったので、引きこもりなんかも増えますよね。でも日本はゆとり教育と言う者をしていたんですけど、それを決めたのは若者ではなくて上の世代の人達なのに社会に出て失敗すると「これだからゆとり世代はだめだ」と言う風に言われるのはあまりよくないと考えます。

私：だから今の若者達の問題は若者達だけの問題ではないと言うわけね。

ミズキ：はい、そして実際他の国の若者達はどのくらい政治に興味あるのかわかりませんが日本の若者は政治と将来のことを結びつけて行動してる人は少ないと思います。私自身、普通のニュースを見てもわからない、わかりづらいことが沢山あるので、結局甘えている人は甘えてて、積極的に変えようとしている人はしてる感じはします。

私：じゃ、今こんな状況になった理由と、その解決策は何でしょう。

ミズキ：理由は沢山あると思いますけど学校教育の中で子供や若者が競争心を育てるという場が減ってきて結果的に社会にでての座折してしまうってことが多いことが原因の1つではないかと思います。また社会が不安定なのでいま、頑張っても将来自分達が高齢になったときの日本がはっきりとみえてこないことで不安になり今何をすればいいか悩んでいるかもしれないです。学校教育問題の解決が1番必要だと思います。若者達はやりたいことを無理して見つけるのでは無くいろんなことを経験しなければならないと思います。国際化されてる世の中で日本だけで無く他の国を見てみるという機会がもっと早いうちにあったら良かったなと感じました。しそたら日本の良さ、悪い所がもっと見えて来るのではないかと...

私：ありがとう。お疲れ様です。後でもう一回インタビュー頼むね。まだうまくまとめなくて、

ミズキ：お疲れ様です。了解です。

## 感想

自分は日本に留学して色んな日本人を見た。そこで感じた僕の日本の若者達に対する考えは「弱い」という感想であった。自分の考えについてはっきり好き嫌いがなくて流れに任せるっていう感じで、他の人が先になんとかしてもらいたがる。例えばクラスで班を組んでレポートをするたび自分の役について他の人が決めてくれるのを待つ傾向が多かった。自分の特技の所とか自分が興味があって先に「ここは私が担当します」という話を聞いた事がない。他には日本の若者達は不景気になるともっと仕事をせざるに家に閉じ籠もるという話を自分のバイト先の社長や、多

くの店の店長達に聞いた。実際今の所どこに行っても人手不足で困っている状況である。そしてニートの生活や、引きこもりなど、社会問題を引き起こしている。日本はとても豊か過ぎて、あまり頑張らなくてもどうにか生活は出来る。焦ることも、必死になることもない。こんな考えが漫然で兵役の義務も無い日本の若者達は切実に何かを求める切っ掛けが少ないと自分は思う。こういう考えについてミズキは人なりの問題で全体に限る問題ではないと言いながらもある程度認めながらその原因を教育の場で競争が少なかったことを挙げた。つまり「ゆとり教育」である。そこで問題の解決策として学校教育問題の解決を挙げた。学校の「国際化」による他の国達との比較で良いところを発展して悪い所を直す必要があるとミズキは答えた。自分はミズキがいう学校の「国際化」という形を具体的に聞けなかったが、現実的に「国際化」を実行できる学校は限られていると思う。経済的にも問題だが、「国際化」という物はコミュニケーションが大事である。だが外国語を身につけるといことは大変難しい事で頑張っても誰もが出来る事ではない。それに学校の経営者に変化を望むとか、教育問題の解決を望むという考え方自体が又、自分自らではなく「他人が自分をどうかしてもらいたい」という考えが蔵していると自分が感じた。勿論僕が今まで見てきた日本人達は地域も職業も年も限られたもので、日本全体に向けて考える問題とは言えないが、今の日本は段々弱くなっていると確かに感じる。単に原発とか地震の問題だけでなく現代を生きる日本の若者達の意識の変換なしには今の日本の危機を克服するのは難しいと私はおもる。